

受験番号

2023年度

神戸国際中学校 A－Ⅱ選考

国 語

(2023年1月14日実施、国語と算数合わせて50分、50点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

□ 次の文を読んで、後の問いに答えなさい。解答に字数の指定のある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。（本文に一部表記を改めたところがあります。）

私は、目が見えない人や耳の聞こえない人、※吃音のある人など、さまざまな障害とともに生きる人が、その体をどのように使いこなし、それとどのように付き合っているのか、ご本人にインタビューをしながら研究をすすめています。インタビューというのは実はインタビュー以外の時間が重要で、その人が待ち合わせ場所で待っているときの姿勢や、コンビニで買いものをするときの様子、信号の渡り方など、何気なく行われるそうした動作に①たくさんのヒントが含まれています。

特に目に見えない人とかかわる場合、インタビュー以外の時間は、その人を※介助する時間でもあります。aグタイ的には、自分の肘や肩に手を添えてもらい、インタビューを行う場所まで一緒にbイドウするのです。

その介助が、私はとても下手くそなのです。単に勉強不足で、アドリブの我流でやっているからなのですが、毎回新鮮な気持ちでドキドキしてしまいます。慌てて階段を斜めに上っては（階段は段差に対してcスイチョコクに進むのが※セオリー）、「だめだよ」と当事者に注意される始末。「介助できない研究者」と笑われています。

（A）、触覚を通じて人と関係をつくるそうした機会は、私にとつてはとても楽しい時間です。介助の※スキルも大事なのですが、②そこにはスキル以上の、何か重要な学びがあるように思えるのです。それは、このような研究を始めるまえの、文学部出身者らしく書庫の奥で※文献を漁っていた時にはなかった、「③触覚の目覚め」を私に

もたらししました。

「目覚め」を（B）押し進めたのは、視覚障害者向けのランニング伴走体験でした。目の見えない人を伴走する体験も面白かったのですが、特にd衝撃を受けたのは、その逆、（C）自分がアイマスクをして目の見える人に伴走してもらう、※ブラインドランの体験でした。

最初にアイマスクをして走ることになったとき、私はバニックに近い恐怖に襲われていました。伴走者といっしょに走るには、小さなロープを輪っかにして、その両端をブラインドランナーと伴走者がそれぞれ握り、腕の振りを※シンクロさせながら横に並んで走ります。ロープを介しているので間接的な接触になりますが、それでも相手の動きや意図をロープを通してしっかりと感じることはできるはずでした。

ところが、いざ走ろうとすると、周囲が確認できないことによるに恐怖で、どうしても足がすくんでしまうのです。視覚を※遮断しているにもかかわらず、木の枝や段差など行く手を※阻むものがそこに「見えた」ほどでした。

けれども、ある瞬間に④覚悟を決めました。伴走をしてくれているのは、サークルのリーダーも務める、ベテラン中のベテランです。この方の素晴らしい導きと、これまでにたくさんの視覚障害者たちが視覚を使わずに走ってきたという歴史がある。それを信じて、身をあずけてしまおう。そう腹をくくったのです。

それ以降の時間の、何と心地よかったことか。最初は歩くことしかできませんでしたが、すぐに走れるようになり、二〇分ほど走ったあとには、全身が経験したことのないような深い快感に包まれていました。

同時に私は※愕然^{がくぜん}としました。自分がそれまでいかに「人に身をあずける」ということをしてこなかったか、ということに気づかされたのです。⑤まるで拾われてきた猫みたいで、人を信じようとせず、誰からも距離をとろうとして、そのことを自立と勘違いしてきたのかもしれない。それは※脳天に衝撃が走るようなショックでした。

目が見えると、外界から得る情報は視覚に頼りがちになります。同じように、人間関係もまた、視覚に※依存^{いぞん}しがちになります。目があったら挨拶^{あいさつ}するし、逆に関心がないことを示すために目を逸^そらすこともあります。「目上の人」「お目にかかる」といった言い回しも視覚の重要性を表しているし、口先の言葉よりも目にこそ本心が宿ると考えられたりもします。本書では文化ごとの接触の度合いの違いに触れることはしませんが、特に日本のような※ハグや握手の習慣がない社会では、視覚の割合はいっそう高くなりがちです。

ブラインドランが教えてくれたのは、視覚だけが他者と関係する手段ではない、という当たり前の事実でした。

視覚は相手との距離を前提にした感覚なので、人間関係にも、距離をもたらします。ところが、触覚は違います。信頼して相手に身をあずけると、あずけた分だけ相手のことを知ることができる。そんな人間関係もあるのです。

「まなざしの人間関係」から「⑥手の人間関係」へ。目の見えない人との関わりが教えてくれたのは、そんな※認識論と※倫理学が交わる領域でした。

(伊藤亜紗 『手の倫理』)

※吃音…発音障害の一つ。おもに第一音が容易に出ない、ある音を繰り返す、在る音を引きのばすなどの症状があらわれる。

※介助…病人や心身に障害のある人につきそって、手助けすること。

※セオリー…理論、学説。基本の考え方。

※スキル…技術。

※文献を漁る…研究資料となる書物を探す。

※ブラインドラン…目が見えない状態で走ること。

※シンクロ…同時にある動作をするなど、同調すること。

※遮断…さえぎりとめること。

※阻む…進もうとするものの進路を押しとどめる。

※愕然…非常におどろくさま。

※脳天…頭のとっぺん。

※依存…他のものにたよって存在すること。

※ハグ…あいさつしていただきあうこと。

※認識…哲学で、人間が理性の働きによって事物の性質や、事物と他の事物との関係などについて正しい判断をもつこと。

※倫理学…人間の行為を律する道德の本質を研究対象とする学問。

問1 || a & dについて、カタカナの語を漢字で、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

問2 | ①「たくさんのヒント」とありますが、これは何を知るためのヒントですか。本文中の語を用いて五十字以内で答えなさい。

問3 (A)・(B)・(C)に入る語として適切なものを次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア そして イ つまり ウ だから エ それでも

オ さらに

問4 ―②「そこ」が指す内容を本文中から二十字以内で抜き出して答えなさい。

問5 ―③「触覚の目覚め」とありますが、この説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 視覚を使わずに、そこにあるはずのものをありありと思い浮かべることができたということ。

イ 視覚に頼らないことで、人に身を預けることの心地よさに気づいたということ。

ウ 視覚に頼らないでいることは、人に頼れないということだと気づいたということ。

エ 視覚を使わずにいることに慣れて触覚に従って走れるようになったということ。

問6 ―④「覚悟を決めました」と同じ意味の慣用句を六字で抜き出さない。

問7 ―⑤「まるで拾われてきた猫みたいでした」について、
(i) この部分に用いられている表現技法の種類を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 隠喩 イ 擬人法 ウ 直喩 エ 体言止め

(ii) 「拾われてきた猫」はこの文ではどのような態度をたとえているのですか。本文の語句を用いて三十字以内で答えなさい。

問8 ―⑦「手の人間関係」とはどのような人間関係ですか。本文の語句を用いて五十字以内で答えなさい。

二

―①～⑤次の傍線部と同じ品詞、または同じ意味のものをあとからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

① 試合が始まるそうだ。

ア あすは雨になりそうだ。

イ まだ雪が降るそうだ。

ウ この問題も解けそうだ。

② 本をあまり読もうとしない。

ア あの山はそんなに高くない。

イ あそこに見えるのは島ではない。

ウ このごろはあまり遊ばない。

③ 花の咲く道を歩く。

ア それは雨の降る夜でした。

イ 動くのがめんどろうだった。

ウ それはできないのです。

④ ここから花火が見られる。

ア 人に助けられる。

イ 将来のことが案じられる。

ウ わたしでも持ちあげられる。

⑤ わたしが鳥ならば世界中を飛び回りたい。

ア 一週間あれば、この小説は読み終わるだろう。

イ 中学生になれば、多くのクラブがある。
ウ 子どもならば、だれでも夢を持っている。

三 次の□に人間の体の部分を表した漢字一字を入れ、下の意味をもつ慣用句を完成させなさい。

- ① □を切る…関係を断つ。
- ② □をそろえる…必要な金額や数量を全部用意する。
- ③ □をわる…本心を打ち明ける。
- ④ □を長くする…まちこがれる。
- ⑤ □を立てる…対面を保つ。めいよを守る。